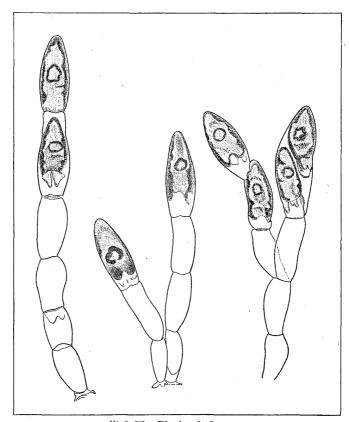
一面ニ綠色ニ 染テヰルノヲ 見テ、ソレヲ 採り檢鏡シタ 所ガ確カニ此 ノ類ト覺シキ モノガアリ、 ソレヲ**スケツ** チシテ永イ間 保存シテヰタ 様ナ氣ガアル ノデアルガ、 今室蘭デ上ノ 植物ヲ見テ比 較シ度ク思ツ ケ探シタガ殘 念乍ラ見當ラ ナイ。然シコ ンナ事カラ考 ヘテ此ノ類ハ 比較的廣ク我 邦沿岸ニ産ス ルモノデハア

ルマイカト思フ。



第 2 圖 Plasinocladus sp. 長イ體ト分枝シタ體 × ca. 90

す げ 屬 植 物 雜 記 (共二)

秋 山 茂 雄

S. AKIYAMA: Notes on some Japanese Carices (II)

柱頭ノ四岐スルすげ 事ハ大分舊イ次第デハアルガ近頃 HAROLD St. JOHN 氏ヨリ同氏及ビ CHARLES S. PARKER 氏共著ノA Tetramerous Species, Section, and Subgenus of Carex (Amer. Journ. Bot. 12, 1925, p. 63-68) ヲ送 ラレタガ、ソノ記スル所ノ要點ヲ擧ゲルト、Mackenzie 氏ガ1906 年= Carex concinnoides トシテ 發表シタ 北米合衆國ノ一新種ト同一種ノモノヲ、Mackenzie 氏トハ全ク關係ナシニ檢ベテ見タ所、雌花ノ柱頭ハ殆ド總テ4本デ、種子ハ四稜形ヲナシ、後ニナツテ旣ニ種名ノツイテヰルモノト分ツテカラモ、記載ニハ3本ノ柱頭ト書イテアルニ關ラズ、實際ニソノ種ノタイプヲ見テ見ルト四ツニ岐レタ柱頭ヲ持ツテヰタ。ソコデ此ノ種ガ新ラシイ屬ヲ代表スルカト考ヘテ見ルニ、一體すげ屬植物ハ二岐及ビ三岐シタ柱頭ヲ持ツモノヲ含ンデヰルノデアルシ、マタ他ノ屬デモー屬中ニ色々ナ柱頭ヲ持ツモノヲ含ンデヰル場合ガアルノダカラ、今敢テ新屬トハシナイガ、併シ新亞屬トスル價値アリトナシ、Altericarex ト云フ新亞屬ヲ立テ、節ヲ Tetragonae トナシ、之ニソノ Carex concinnoides Mackenzie ヲ含マセルト云フノデアル。

然ル=既= 1915 年=早田博士ハ臺灣植物圖譜第十卷=臺灣産ノー新種トシテ Diplocarex Matsudai HAYATA あこうすげト云フモノヲ記載シ、コ、ニー新屬ナル Diplocarex ヲ立テ、ソノすげト相違スル點ハ雄花ノ花絲ガ4本カラ6 本アリ、雌花ノ柱頭モ矢張リ4本カラ6本=迄岐レテヰルト發表サレタ。

之等二種ハソノ記載=伴ツタ圖デモ分ル様=、前者ハ MACKENZIE 氏ガ云ツテヰル通リすげ屬中ノ Digitatae 節=入レテョイ様ナ形デアリ、後者ハ隨分風變リデハアルガ先ず同ジク Hymenochlaenae 節中=挿入シテョイ様ナ形狀ヲナシテヰル。

先年小生ガみやまあをすげ Carex niko-montana トシテ日光産ノーツノすげノ東大理學部=所藏サレテヰルモノデハ柱頭ノ四岐シテヰルモノガ澤山=見受ケラレタ。(併シ柱頭3ツノモノモ相當豐富=アル。)マタくろぼすげデ小生ノ見タモノ=四角ノ切口ヲ示ス種子ヲ持ツモノガアツタ(北大紀要第五類第二卷1932,116 頁第 65 圖)。コレハ極メテ稀デアル上=柱頭ハ落チテヰルノデ、四岐スル如何ハ見ル=由ナイモノデハアルガ、コノ種子ノ形カラ推シテ恐ラクハ4本=ナツテヰタト思ハレル。コンナエ合デ人々ガ精査シテ見タナラバ、柱頭ガ4本=岐レテヰル場合モ案外=多イノデハアルマイカトモ考へラレル。マタきんすげ Carex pyrenaica Wahlenberg デハ柱頭ガ2本乃至3本アル事ハアルガ)、ちしまなるこすげ Carex saxatilis L. =於テハ、柱頭ハ二岐シ、稀=三本トナリ、三岐スル際=ハ二岐シター方ノ柱頭ガ更=二ツ=割レテ都合三本=ナル様子ガ明ラカ=見エル事ガ屢×アルノデアル。

之等ノ事實ョリ推シテ考ヘレバ、次ノ様ナ事ガ云ヘルト思ハレルノデアル。 即チすげ屬植物ノ柱頭ハ二岐スルカ三岐スルノガ最モ普通デアルガ、併シ時ニョルト二本ノモノガ三本ニナツタリ(別ノ見方ヨリスレバ3本ノモノガ2本ニナツタリ)、マタ3本ノモノガ4本ニナツタリスルモノデアル。

現今最モー般=行ハレテヰル KÜKENTHAL ノ整頓シタ分類形式 (KÜKENTHAL Cyperaceae-Caricoideae, in ENGLER, Pflanzenreich IV. 20. 1909) ヲ見ルノニ、柱頭ノ敷ハ亞屬ノ分括=ハ用ヒラレズ、節ノ區別=ハ用ヒタ所アリマタ用ヒナイデ各亞節乃至各種ノ區分=擧ゲテヰル事モアル。前出ちしまなるこすげ等=於テハ、更=柱頭三本トキマツテヰルおになるこすげ Carex vesicaria L. ノ亞種トサヘナサレテヰテ、一般=柱頭ノ敷ハコノ分類方式デハ餘リ重大視サレテヰナイ。

依ツテ、モシー般ガソノ KÜKENTHAL 氏ノ分類形式ヲ蹈襲スルナラバ(田.S. John 氏等皆ナソノ場合=此ノ形式デ行ツテヰル)、四岐シタ柱頭ヲ有スルガ故=一ツノ亞屬ヲ立テルノモー寸變=思ハレル所アリ、尚且ツ柱頭以外ノ種々ノ特徴ガ現在用ヒラレテヰルすげノアル節ノモノト酷似シテヰル際=於テハ、ワザワザーツノ亞屬トカ屬トシテ分ケル事ハ尚更出來ナイデアラウト考へラレルノデアル。更=前出 Carex concinnoides =テハ極メテ稀デハアルガ、鬼=角四岐以外ノ柱頭ノモノ(恐ラク三岐シテヰル事ダラウト思フ)モアルノデアツテ、小輩ハ確然トシテ柱頭ノ二岐乃至三岐シタモノト相違シタ場合=ノミ、節トシテ他ト區分シテ取扱ヒ度イト思フノデアル。

しようじようすげノニ品 コノ種=ツイテハ KÜKENTHAL 氏ノ 發表以來全部 Carex blepharicarpa Franchet ノ學名デ呼バレテキルガ、コノモノ=スクナクトモニツノ形式ノモノガ含マレテアル事ハ先般來小生=モ氣ガツイテヰタ。即チー方ハ北海道カラ内地一帶=カケテ見ルモノデ割合ト山岳地帶=多ク、地下莖ガ剛强デ、葉ノ幅ガ 3-4mm. 雌花ノ鱗片ガ黄赤色=輝イテヰル、モーツノ方ハコレ=反シ、地下莖緩ク簇生シ、葉ハズツト狭ク、雌花ノ鱗片ハ黄褐色乃至褐紫色デアル。ソレデ KÜKENTHAL ガ C. blepharicarpa 乃至ソノ Synonymトシタ原記載ヲ見タノデアルガ、ソレ=ヨルト前者ハ Carex blepharicarpa Franchet ノ記載=頗ルヨク一致シ、後者ハ synonymトナツテヰル C. dueensis Meinshausenト之マタ極メテー致スル。C. dueensisノ産地トシテハ樺太ガ擧ゲテアルガ樺太カラ北海道ノ林ノ中等=多クアリ、マタ東北地方ヨリ富士山麓邊迄及ンデヰルト見ラレル。 但シニ者ノ極端ナルモノハ隨分違フガ、コノ特徴ガ割合ト接近シテ來ル場合モアルカラ Carex blepharicarpa



第3圖 たかねしようじょうすげ パックス (右方) ×3/4

FRANGHET ヲしようじようすげトシ後ノ 北方ニ多イ品ヲソノ變種 var. dueensis (MEINSH.) トシタイ意響デアル。

前回=小生ガしようじようすげデ最下穂 が稍根生スルト云ツタ品ハきたしようじよ うすげノ事デアツテ、MEINSHAUSEN ノ記 載=モソノ事ガ書イテアツタ。小生ガ以前 C. yezo-montana トイフ新種ヲタテ後 C. blepharicarpa ノ Synonym トシタ品ハコ ノ變種品ノ小サクナツタ若イ品デアルカラ 和名ハたかねしようじようすげトナルガ、 コノ小サクナツタ形ノモノ=ハニ者ノイヅ レ=モ起ル様デアル。*

たかねしようじようすげノ畸形 北大館 脇博士採集品ノ禮文島産ノモノ、中ニ苞葉 ガ二股ニナツテヰテ、ソコカラ二本ノ雌花 穂ヲ生ズル畸形品ガニ三アツタノデ、ソノーツノ寫眞ヲ掲載サセテ戴ク。

ちやいろたぬきらんノ學名 小生ガ岩手

*Carex blepharicarpa Franchet in Bull. Soc. Philom. Paris 8. sér. VII. (1895) 46 et Nouv. Arch. Mus. Paris 3. sér. IX. (1897) 171; KÜKENTHAL in ENGLER, Pflanzenreich IV. 20 (1909) 468 p. p. et fig. 74 F-G; АКІУАМА in Journ. Fac. Sc. Hokkaido Imp. Univ. Ser. V. II. (1932) 134 p. p. et fig. 82.

- C. polyrrhiza Franchet et Savatier, Enum. Pl. Jap. II. (1879) 140, non Wallr.
- C. Hayatae Léveille et Vanior, in Fedde, Repert. V. (1908) 240.

Nom. Jap. Shôjô-suge.

Hab. Saghalien, Hokkaido and Honshiu.

Distrib. Kamtchatka?

var. dueensis Akiyama comb. nov.

- C. dueensis Meinshausen in Acta Horti Petropol. XVIII. (1901) 387.
- C. blepharicarpa Kükenthal, l. c. p. p.; Akiyama l. c. p. p.
- C. yezo-montana Акіуама, in Journ. Fac. Sc. Hokkaido Imp. Univ. Ser. V. I. (1931) 62 Pt. XV. fig. 9.

Rhizoma laxe caespitosum. Folia multo angustiora. Spicula infima saepe subradicalis. Squamae femineae fulvae vel purpurascentes.

Nom. Jap. Takane-shôjô-suge.

Hab. Saghalien, Hokkaiko and Honsiu.

Distrib.?

山ノモノデ 花穂ノ鱗片ガ 茶褐色ノー品 = Carex flavocuspis var. iwatensis (Journ. Fac. Sci. Hokkaido Imp. Univ. Ser. V. 2 p, 123) トイフ名ヲツケタガ京都帝大所藏ノ標本ヲ見セテ戴イタ所正シク C. flavocuspis var. platy-carpa Kükenthal デアルコトヲ知リ得、コヽニ不明ヲ謝ス。只原記載ガ簡單過ギテ分ラナカツタノデアル。尚同品ハ須藤千春氏ガ北海道大雪山デ採集シテヰル。

ひとつばじふもんじしだヲ出雲ニ採ル

林

Minoru Hayashi: Polystichum tripteron var. simplicissimum
Tagawa in Prov. Izumo

昭和八年十二月二十八日冷イ雨ノ中ヲ來待停車場ョリ岩屋寺(島根縣八束郡

來待村大字上來待字佐倉岩屋寺)= 向ツタ。同地=ハ高サ 7 m. バカリノ龍ガアリ、附近ハ砂岩ョリ成リ 一帯=濕潤デアツテ樹木ノ繁茂モ好ク、一寸見渡シタ處デモ、ひめはでいた。 はひほらごけ、うちはなけ、うちはでけ、きじのを、おほきじのを、かなしだ。 しのぶ、くりはらん、やのねしだ、ひばのかなわらび、かなわらび、かなわらび、たってくしだ、のこまにやぶそてつ、へらしだ、みやした、ためで、じふもんじしだ等々中々美顔類ガ多イ。

私ハ先=田川基二理學士ガ、「植物分類地理」第一卷第一號=竹內敬氏ノ丹波國長老嶽=採集サレタじふもんじしだノー型= Polystichum

